

外壁用

● ホルムアルデヒド放散等級 ●
F ☆☆☆☆

水性 Periarart UV
paint for exterior art
multi-color aqueous coating

水性シリコン系多彩模様塗料

水性ペリアート® UV 施工要領書

● 目 次 ●

・製品特長	3
・製品構成	3
・標準塗装仕様	4
・下地調整	4
・塗料の準備	5
・施工の進め方	6
・仕上がり面の状態	6
・施工直後と乾燥後の塗装面の変化について	7
・吹付け施工要領	8
・目地材との取り合いでの注意事項	10
・施工上の要点・注意事項	11
・安全衛生上の注意事項	11

● はじめに ●

本要領書では水性ペリアートUVカタログに記載されている施工に関する重要事項をイラストを交えてわかりやすくご説明しております。

必ず、施工前に全工程をご確認ください。美しい仕上がりを得るための、正しい施工方法が掲載されておりますので、お役立てください。

● 製品特長

- **高 耐 侯 性** 表層のシリコン系クリヤーにより、美しい意匠を長く持続させることができます。
- **高 意 匠 性** 単一色でなく、様々な複合色を創り出す。自然本来のやさしい彩りが、住まいの外壁に深い味わいをかもしだします。
- **防藻・防かび性** 防藻・防かび性があり、外部からの藻類やかび類を塗膜で抑制します。
- **微 弾 性 機 能** 専用の下塗りとセットすることで微弾性のある塗膜となり、旧微弾性塗膜に追従することができます。
- **完 全 水 系** 環境にやさしい水性システムです。
- **低 汚 染 性** 雨水といっしょに汚れが落ちやすく、汚れが目立ちにくい構造です。
- **3分つや有り** 3分つや有り仕上げのしっとりとした質感の仕上げが得られます。
- **省 工 程** 吹付け標準塗装では2工程で仕上がります。

● 製品構成

製品名	概 要	容 量	色 相 数
水性ペリアート UV 下塗	水性ペリアート UV 用下塗塗料	3kg・15kg	16
水性ペリアートUV上塗(S)	水性シリコン系多彩模様塗料 吹付け用	3kg・16kg	16

製品名	概 要	容 量	色 相
水性カチオンシーラー	水性カチオンエポキシ複合型シーラー	15kg	透明 ホワイト
ファイン浸透シーラー	ターペン可溶2液形エポキシ樹脂シーラー	15kgセット	透明 ホワイト
パーフェクトプライマー	ターペン可溶2液形変性エポキシ樹脂錆止め塗料	15kgセット	白 ダークグレー
ブリードオフプライマー	可塑剤移行防止2液形エポキシ樹脂プライマー	0.5kgセット	白
DAN フィラーエポ	防水形複層塗材 RE(目地部のワレ抑制)	16kg	白

色相一覧

Soft(気取らずシンプルに)		Dress(控えめな甘さが隠し味)	
pa-03 スムースコットン	pa-21 ナチュラルハニー	pa-12 ベビーチーク	pa-14 ミスティーローズ
pa-42 パウダーピンク	pa-47 ハニーバフ	pa-40 アッシュフラミンゴ	pa-51 スモーキーショコラ
Classic(重厚感を味わう)		Mono(ストレートに伝える美しさ)	
pa-02 オーガニックリーフ	pa-06 オーチャードツリー	pa-01 フレッシュスノー	pa-31 ミディアムアッシュ
pa-64 グリーンティアー	pa-58 テムズリバー	pa-35 ダークサンドⅡ	pa-45 ミストシルバー

標準塗装仕様

吹付け塗装(2工程)

工程	塗料名	塗り回数	使用量 (kg/m ² /回)	塗り重ね 乾燥時間 (23℃)	希釈率 (%)	塗装方法
下地調整	膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺を含め入念に除去する。ごみ、砂じん、油脂分などの付着物をワイヤーブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。釘頭のさびは、サンドペーパー、研磨布などを用いて除去し、さび止め塗料で補修塗りする。					
(シーラー)	標準的な改修塗装の場合には必要ありません。新築や下地の種別により必要なケースがあります。詳細は「下地調整」の項をご確認ください。					
下塗り	水性ペリアート UV下塗	1~2 ^{*1}	0.25~0.35	3時間以上	—	はけ ウールローラー(中毛)
上塗り	水性ペリアート UV上塗(S)	1~2 ^{*2}	0.50~0.70	16時間以上	—	万能ガン 5.5mm/圧0.15MPa (1.5kgf/cm ²) (手元にて空気量微調整)

※1 下地が隠ぺいしない場合は2回となります。

※2 被塗物の形状により上塗りの塗着量が少なくなる場合は2回に分けて塗装してください。

下地調整

●外装：新築外壁面 改修外壁面

	下地	別途下塗りの選定
新築素材面	コンクリート モルタル スレート	セメント系下地に塗装する場合は、エポキシ樹脂シーラー(ファイン浸透シーラー)を塗装する。
	ALC	セメント系下地調整材(ニッペ1材カチオンフィラーまたはニッペ1材フィラー#200)で処理した後エポキシ樹脂シーラー(ファイン浸透シーラー)を塗装する。動きの大きいジョイントは塗装せず露出とする。
改修面	窯業系サイディングボード(*) リシン 微弾性仕上げ塗料 吹付けタイル 高弾性を除く各種塗膜(**)	リシン等吸い込みが激しく、塗膜表層が脆弱化している場合には、エポキシ樹脂シーラー(ファイン浸透シーラー)が必要。

(*)・・・ 竣工図書をご確認ください。無機系仕上げボードの場合は、ファインパーフェクトシーラーをご使用ください。

(**)・・・ 既存塗膜が高弾性系塗膜の場合には、塗装すると割れが発生することがありますので、施工は避けてください。また、弾性リシンや弾性スタッコの場合には、塗装後に膨れが発生することがありますので、施工は避けてください。

※エポキシ樹脂シーラーは上記以外に、ニッペ浸透性シーラー(新)、ニッペ1液ファンパーフェクトシーラー、ニッペファインパーフェクトシーラーもご使用できます。

●内装：改修内部壁面

防火認定材料ではありませんので新築物件には適用できません。

また、改修工事においても防火認定が必要な場合には使用しないようにしてください。

	下地	別途下塗りの選定(*)
改修面	モルタル コンクリート プラスターボード	パテ処理等下地調整実施の場合はシーラー（水性カチオンシーラー）から塗装して下さい。

(*)・・・パテ面には必ずシーラーを塗装してください。シーラーが塗装されていない場合には、十分な付着が確保できないことがあります。

※シーラーは上記以外に、水性透明シーラー、水性ホワイトシーラー、水性シミ止めシーラーⅡもご使用できます。

●金属サイディング外壁面と付随する付帯鉄部

	下地	別途下塗りの選定(*)
改修面	金属サイディングボード 外壁面に付随する付帯鉄部	既存面へは付着向上のため、十分な目あらしを実施し、エポキシ樹脂プライマー（パーフェクトプライマー）を塗装する。

(*)・・・さびの発生が顕著な場合や外壁面以外の鉄部の場合には、別途最寄の営業所までお問合せください。

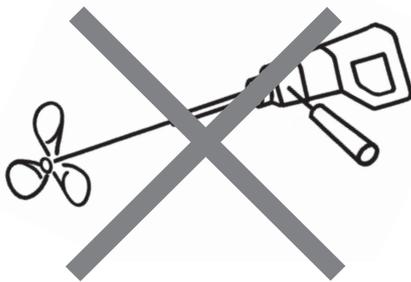
※エポキシ樹脂プライマーは上記以外に、ハイボン20デクロ、ニッペ1液ハイボンファインデクロもご使用できます。

●塗料の準備

水性ペリアートUVの上塗り塗料は、着色粒子がダンゴ状のかたまりで存在しています。フタをあけると見た目はヨーグルト状で、クリヤー成分が多少浮き上がっていることがあります。塗料のかくはんについては、ひしゃくを用いてゆっくりとかき回してください。下塗り塗料・上塗り塗料の希釈は行ないません。

注 意

【電動かくはん機 NG】
(着色粒子がつぶれてしまいます)



【水希釈 NG(下塗り・上塗り)】
(塗装適性が失われます)

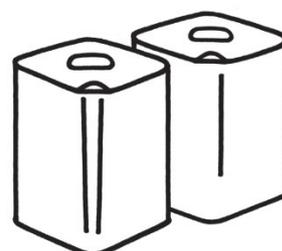


荷 姿

【上塗り荷姿：ポリペール缶】
(16kg / 3kg 入れ目)



【下塗り荷姿：石油缶】
(15kg/ 3kg 入れ目)



● 施工の進め方

① 現場見本作成と施工条件の確認

【水性ペリアート UV 上塗】は多彩模様塗料ですので、施工の実施内容や塗料ロットにより、見本板との色相・模様には多少のばらつきを生じることがあります。

必ず現場にて施工条件(圧力調整や塗り付け量)と仕上がり面の確認を実施してください。また、現場条件での仕上がり見本を作成して頂くことを推奨致します(*)。

(*)下塗り各色で塗装した板をご用意しております(有償・納期必要)。3kg小缶もございますので、現場での仕上がり確認用としてお使いください。

② 養生～塗装

建物の周囲にメッシュ養生し、塗料が近隣に飛散しないように十分養生してください。また、未塗装面についても、マスカー等で十分養生してください。

近隣の自動車や植栽等にも養生を行い、万が一塗料が飛散した場合にも、周辺を汚さないようにご配慮ください。

塗装条件詳細については、それぞれの方法を以降に記載しております。ご確認の上、あらかじめ確認した条件に沿って、実施してください。

③ 仕上がり確認～部分補修

塗装直後の状態と乾燥後の状態では、色相や凹凸状態が異なります。

仕上がり確認と部分補修については、塗膜乾燥後に実施してください。

養生撤去

養生テープやマスカーなどの養生撤去は塗膜乾燥後に実施してください。必要に応じてカッターナイフ等を用いて実施してください。

道具の洗浄

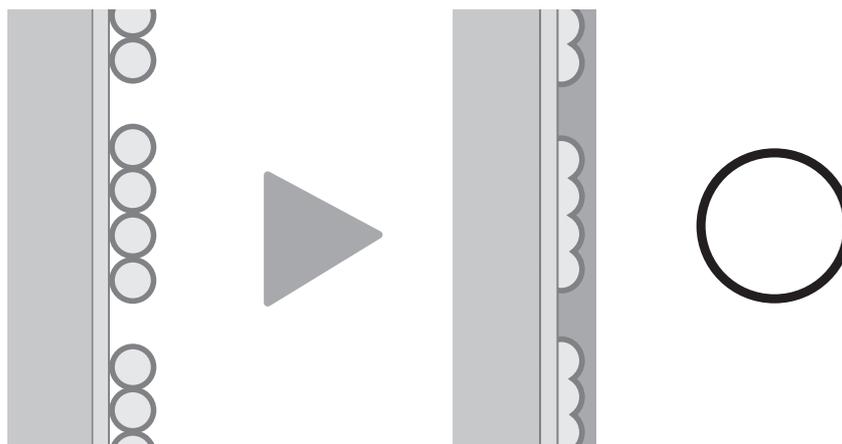
基本は水での洗浄で付着した塗料を除去してください。乾燥して水では除去できないものについては、ラッカーシンナー等で除去してください。

● 仕上がり面の状態

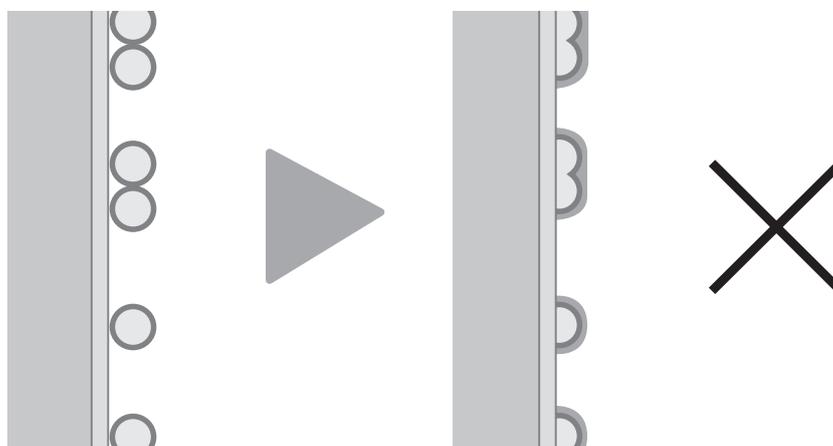
【水性ペリアート UV 上塗】下塗り塗装面を80%以上隠ぺいさせるように塗装します。部分的に【水性ペリアート UV 下塗】の色相が露出する箇所が生じますが、その箇所では【水性ペリアート UV 上塗】のクリヤー成分がぬれ広がることで、下塗り塗膜は保護されます。

(*)【水性ペリアート UV 下塗】は一定の耐候性を有していますが、極端に上塗り塗料の塗り付け量が少ない場合や塗り残しが発生した場合には、経年で劣化程度に差が生じますのでご注意ください。

標準塗り付け量で80%程度隠ぺい ⇒ 下塗り塗膜にクリヤーがぬれ広がるイメージ



塗り付け量が極端に少なく、パラ吹きのイメージ ⇒ クリヤーが途中でちぎれ、下塗り塗膜が露出



● 施工直後と乾燥後の塗装面の変化について

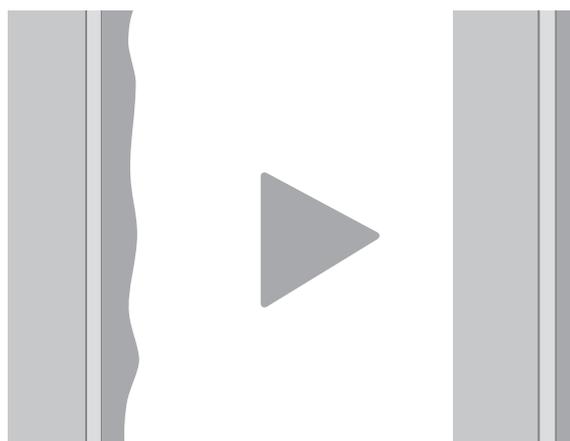
塗装直後には、塗膜表面の起伏が大きくなります。乾燥後には、大きな起伏がやせることで、塗装面はやや平滑に変化します。

※塗り始めの色と乾燥後の色は大きく異なりますが(色の昇りが大きい)当製品の特性であり異常ではございませんのでご安心ください。

着色粒子の散らばり方が異なるため、見た目の色相が変わります。実際の模様につきましては試験施工にて、ご確認ください。

● 吹付け直後

乾燥後



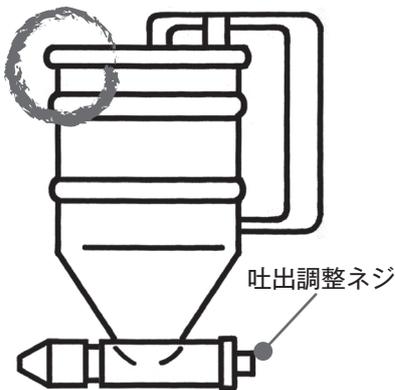
平滑模様

● 吹付け施工要領

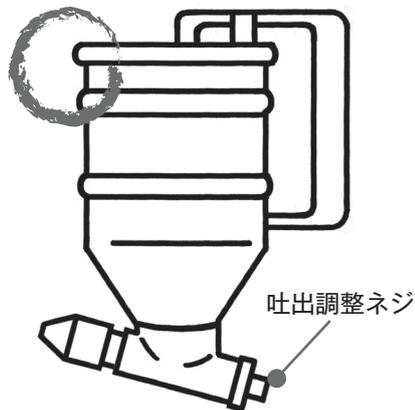
ガ ン

低圧吹付けによる飛散低減と安定した仕上がりの点から、吐出調整ネジのついた万能ガンを推奨致します。

【万能ガン①】



【万能ガン②】



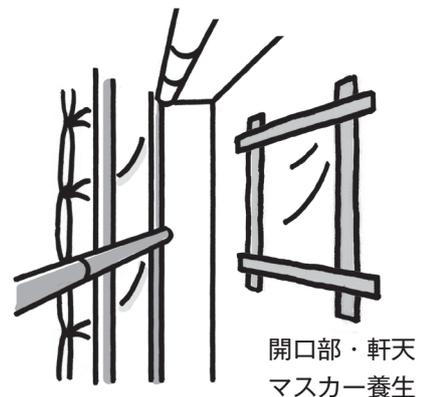
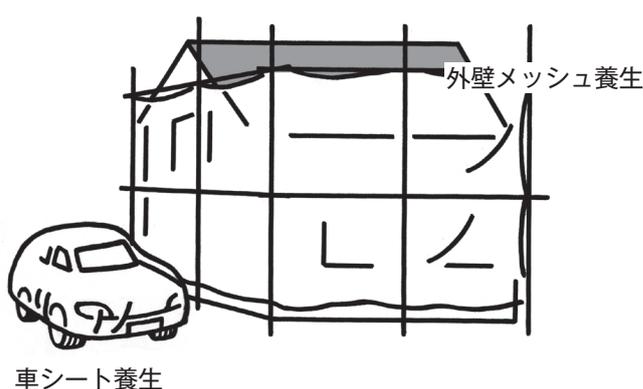
万能ガンでの推奨吹付け条件

ガン口径	吐出調整ネジ	手元圧	運行回数(パス数)
5～6mm	4～6回転	0.1～0.2MPa(1.0～2kgf/cm ²)	縦・横1回ずつ

手元の圧力は、コンプレッサーの馬力やホースの長さで異なります。トランスフォーマー(圧力計)を用いて調整してください。必ず試し吹きでの圧力調整を行ない、仕上がりの確認を実施してください。

養 生

本塗料の仕上がりは擬石調の仕上がりとなりますが、塗料には石材は混入されていません。そのため、吹付け時の跳ね返りは少なく、万能ガンにより低圧で施工することから比較的飛散は少ない方ですが、養生については、吹付け作業に適した養生を実施してください。また、周辺環境に対するご配慮もお願い致します。



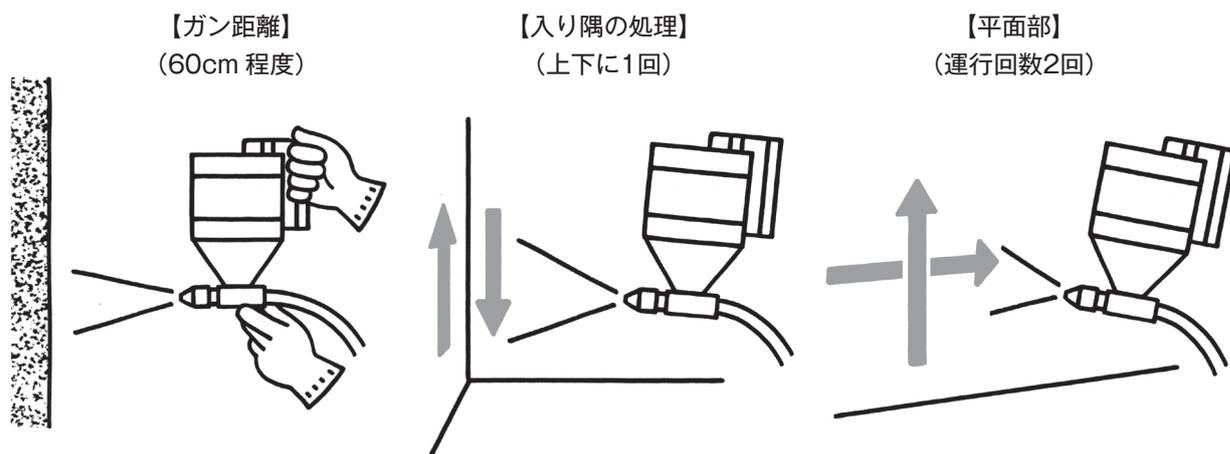
下塗り

【水性ペリアートUV下塗】は部分的にクリアー塗膜に覆われた状態で色相が露出することを想定していますので、下塗り塗料の色相名は、**上塗り塗料と同じ色相名のものを塗装**してください。下塗りについては、はけかウールローラー（中毛）をご使用ください（いずれも無希釈）。

（*）新築面や劣化の著しい面については、別途シーラーが必要となります。

上塗り

試し吹きにて現場での圧力調整が済んだら、**入り隅部・出隅部 ⇒ 平面部**の順番で塗装してください。



部分補修

基本的には、乾燥後に補修面に対して吹付け塗装を実施します。わずかな補修面であれば、はけで叩くように上塗りを塗付します。

注意

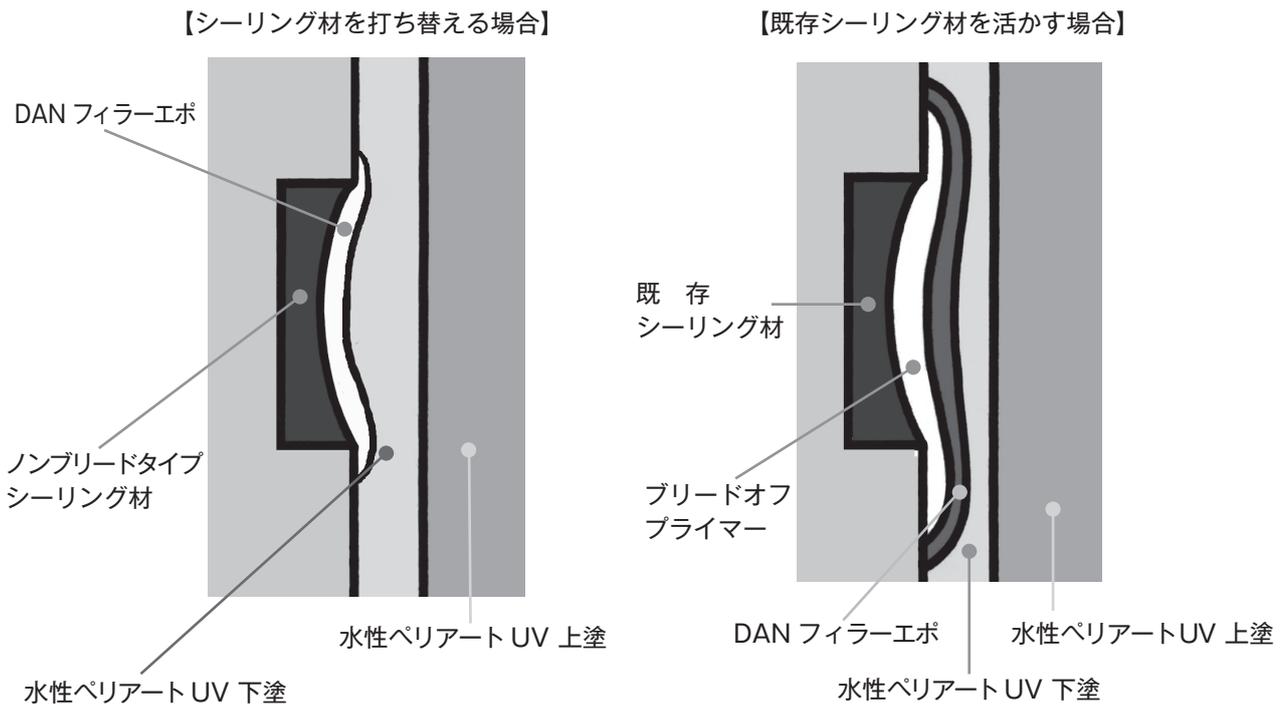
多彩模様塗料はロットにより多少、色相・模様にはらつきを生じます。現場塗装時の塗料を補修用塗料として保管してください。

● 目地材との取り合いでの注意事項

目地シーリング材について

シーリング面の塗装は割れやはく離の不具合を起こすことがありますので、推奨は致しません。やむを得ず施工をする場合は、不具合軽減のため次の方法での施工を推奨致します。

想定されるケース	方法
シーリング材を打ち替える場合	ノンブリードタイプのシーリング材にて打ち替えを実施。 割れ抑制：シーリング面の両サイド20mm程度から【DAN フィラーエポ】をウールローラーにより塗装。
既存シーリング材を活かす場合	①汚れ付着物の除去：塗料用シンナー等による清掃。 ②可塑剤移行(汚染)抑制：シーリング面のみ【ブリードオフプライマー】を塗装。 ③割れ抑制：シーリング面の両サイド20mm程度から【DAN フィラーエポ】をウールローラーにより塗装。



ガスケットについて

ガスケットについては、通常、シーリング材よりも可塑剤量が多いことから、ガスケットの表面に必ず、可塑剤移行防止プライマー【ブリードオフプライマー】を塗装してください。

● 施工上の要点・注意事項

1. 指定のローラーでくばり塗りを行い、次いでならし塗りした後、上から下へ模様むらの生じないように行ってください。規定の使用量より少ない場合、隠れい力不足や仕上がりが不良などが起こります。
2. 水性ベリアート UV上塗は経時により流動性が低下しますので、ご使用前には必ず流動性が発現するまで、よくかくはんしてください。なお、かくはん棒などを使い、手でゆるやかにかくはんしてください。粒子がつぶれるおそれがありますので、電動かくはん機などは使用しないでください。
3. 蓄熱されやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最寄の営業所などにご相談ください。
4. 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
5. 機器および道具類の使用後は、そのまま放置しないですぐ水につけ、その後必ず水洗いしてください。塗料が付着したまま放置して乾燥しますと、こびりついて取れなくなります。
6. 塗装後、養生テープはナイフカットして取り外してください。
7. 下地の状態や形状、面積、塗料温度、塗装条件などによって、見本と色調および模様の変更が生じる可能性がありますので、塗装前に試し塗りをしてください。
8. 多彩塗料ですと、ロット差による多少の色相のずれはあらかじめご了承ください。
9. 仕上がり模様は、事前に試し塗りをを行い条件などを設定してから本施工に入ってください。
10. 塗装直後と乾燥後では若干色が異なる場合があります。
11. 窯業サイディングボードの突き合わせ部などは、動きが大きい場合があります。そのため経時でのひび割れ発生の可能性がありますので、できるだけ施工を避けてください。
12. 施工に関しましては、必ず水性ベリアート UV施工要領書をご参照ください。
13. 防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
14. 被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が発現されない場合があります。
15. 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風の無い場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気分を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。
16. 色相によっては降雨、結露によってぬれ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。
17. 乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。
18. 乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じることがありますが、時間とともになくなります。
19. 反応硬化タイプの塗料のため、使用後はけなどはできるだけ早く水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラッカーシンナーで洗浄してください。
20. 動物はけは、はげが固まったりダマになりやすいので、できるだけナイロンはけをご使用ください。
21. 氷点下で貯蔵すると凍ります。凍らないように5℃以上で貯蔵、保管してください。
22. 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこなうおそれがあります。
23. 内部塗り替えにおいて旧塗膜がSOP、FEなどの油性系の場合、研磨すりを行ってください。下地処理が不十分な場合は、塗膜はく離の原因となります。
24. 既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
25. 風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ1液ファインパーフェクトシーラー、ニッペファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーをご使用ください。なお、使用量は濡れ感が出るまでを目安とし、素地への吸い込み箇所がある場合はその部分を増し塗りしてください。
26. シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
27. タイル面の洗浄に使用する薬剤が塗装面に付着すると、変色や早期劣化などを生じることがありますので、この様な場合には薬剤が付着しない様に塗膜面の養生を行なってください。
28. 素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下（ケツ科学社製 CH-2型で測定した場合）、または5%以下（ケツ科学社製 Hi500シリーズ：コンクリートレンジで測定した場合）の条件で塗装してください。
29. 素地の乾燥は十分に行ってください。
30. ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材（ニッペ1材カチオンフィラー、ニッペ1材フィラー#200）などで処理してください（合成樹脂エマルジョンパテの使用は避けてください）。
31. 開封後放置する時は皮が張らないようにポリエチレンシートなどでシールし、保管してください。
32. 塗装直後から頻繁に人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮脂の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。
33. カウンター、陳列棚、ベンチ、床面などものが常時置かれるような場所には跡がつくおそれがありますので塗装しないでください。
34. 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
35. 塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
36. 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
37. 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
38. シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離などの不具合を起こすことがありますので、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑性移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
39. 笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
40. 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
41. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なって見えることがあります。
42. 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
43. 汚れ、きずなどにより補修塗料が必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
44. クロスの上の塗装は避けてください。
45. 可塑性が多く含まれる塩ビクロス、塩ビゾル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革などへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。
46. 表面に特殊セラミック処理・特殊ガラスコート処理、フッ素コート処理、はっ水処理、光触媒処理などの特殊な処理を施した素材には、塗料が付着しない場合や、塗膜に不具合を生じる場合がありますので塗装を避けてください。
47. 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
48. 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。

・ 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。

・ 塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理してください。容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

■ 本カタログ掲載商品の詳細な危険有害性情報や使用上の注意事項等については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

■ 本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。

日本ペイント株式会社

北海道支店	☎ 011-370-3101	近畿支店	☎ 06-6455-9608
東北支店	☎ 022-232-6711	中国支店	☎ 082-281-2180
関東支店	☎ 03-5479-3614	四国支店	☎ 0877-56-2346
北関東信越支店	☎ 03-5479-3614	九州支店	☎ 092-751-9861
中部支店	☎ 052-461-1960		

- 本カタログの内容については予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 本カタログ中の製品名・会社名は、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
- ©Copyright 2025 NIPPON PAINT Co., Ltd. All rights reserved.
- 日本ペイントホームページ <https://www.nipponpaint.co.jp/>

カタログNo.
NP-D013

AA250200T
2025年2月現在